| 科目ナンバリング | |
|---|---|

| 授業科目名<br><英訳> | 森里海連環学II ：森林学<br>Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans II :Forest Science | 担当者所属<br>職名・氏名 | ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 教授 徳地 直子<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 教授 吉岡 崇仁<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 准教授 長谷川 尚史<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 教授 舘野 隆之輔<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 准教授 伊勢 武史<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 准教授 石原 正恵<br>農学研究科 教授 松下 幸司<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 講師 中島 皇<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 助教 中西 麻美<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 講師 坂野上 なお<br>東南ｱｼﾞｱ地域研究研究所 特定助教 中川 光<br>ﾌｨｰﾙﾄﾞ科学教育研究ｾﾝﾀｰ 特定助教 藤井 佐織 |
|---|---|---|---|

| 群 | 統合科学科目群 | 分野(分類) | 森里海連環学 | 使用言語 | 日本語 |
|---|---|---|---|---|---|

| 旧群 | B群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 開講年度・開講期 | 2025・前期 | 曜時限 | 金2 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

**[授業の概要・目的]**

森林について、森林をとりまく社会情勢、林業の現状、森林の生態学的把握、森林の生み出す機能、森林をよりよく利用するための方策など、多方面から森林を解析し、総合的に森林に対する理解を深める。

**[到達目標]**

森林について多面的に学習を通じて、科学的知見に基づき森林のあり方を検討することができるようになる。

**[授業計画と内容]**

我が国は森林が国土面積の7割を森林が占めており、先進国の中でも際立った存在である。しかしながら、温暖化など地球規模での環境問題は我が国の森林においても等しく顕在化しており、加えて木材自給率は30%を下回り、その利用においても問題が生じている。本講義では、これら我が国の自然環境ならびに森林を取り巻く状況を紹介したのち、生態学的な視点から森林の更新維持機構を学習し、物質循環を通じた森林の持続可能性について論じる。さらに、これらの知見をもとに、森林の利用と管理についての検討を加える。

以下の各テーマについて講義を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 日本の森林 | 石原 |
| 2 | 森林と水・土 | 中島 |
| 3 | 〃 | |
| 4 | 森林生態系の炭素循環 | 伊勢 |
| 5 | 森林生態系の窒素循環 | 舘野 |
| 6 | 森林土壌動物 | 藤井 |
| 7 | 森林生態系の機能とサービス | 徳地 |
| 8 | 花粉症問題と森林 | 中西 |
| 9 | 森林生態系と河川生態系 | 中川 |
| 10 | 川から森を診る | 吉岡 |
| 11 | 造林政策 | 松下 |
| 12 | 森林資源の利用 | 長谷川 |

森里海連環学II ：森林学(2)へ続く↓↓↓

**森里海連環学II　：森林学(2)**

13　　〃
14　木材の消費・流通システム　　坂野上
15　フィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

各回での小レポートによる採点を基準とする。

**[教科書]**

授業中に指示する
講義に際して使用するテキストは、KULASISよりダウンロードしておくこと。

**[参考書等]**

（参考書）
森林立地学会編 『森のバランス』（東海大学出版会）
伊勢武史 『学んでみると生態学はおもしろい』（ペレ出版）

（関連ＵＲＬ）
https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/(京都大学フィールド科学教育研究センターHP)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

フィールドセンターのHPなどを用いて、森林に関する情報を確認しておく。

**[その他（オフィスアワー等）]**

森林に関する多面的な講義を予定しているので、文系理系に関わらず受講を歓迎します。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**